

知事記者会見の概要

日 時：令和4年11月9日(水) 10:00～10:44

場 所：502会議室

出席記者：12名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 「やまがたハッピーサポートセンター」における新マッチングシステムの導入について

代表質問

- (1) 新型コロナ感染拡大について
- (2) 水際対策の緩和から1か月を受けて

フリー質問

- (1) 新型コロナウイルス感染症への対応について
- (2) 政府の総合経済対策について
- (3) モンテディオ山形の今シーズンの活躍について
- (4) 北朝鮮による弾道ミサイル発射とそれに伴うJアラートの発令について
- (5) 「山形県さくらんぼ&フルーツPR協議会(仮称)」の設立について
- (6) YAMAGATA Youth Summitについて

<幹事社：読売・日経・YTS>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。始めに新型コロナについて申し上げます。

全国の新規感染者数ですが、全ての都道府県で増加傾向となっております。特に、東北や北海道、北陸などの寒冷地で増加傾向が顕著になっており、感染再拡大の動きが見られるところ です。

本県では、11月に入り、1日の感染者数が1,000人を超える日が増えております。8日現在の直近1週間の人口10万人あたりの新規感染者数は708.99人となり、依然として、全国の中でも高い水準にあります。

また、8日現在の病床使用率は34.6%まで上昇しており、一部の医療機関では院内感染も発生しております。

一方、この冬は、新型コロナとインフルエンザの同時流行も懸念されております。

今後の感染拡大に備え、厚生労働省をはじめ関係機関の連名でリーフレットによる呼びかけをしているところです。

新型コロナ、インフルエンザとも、ご希望される方は、早期のワクチン接種のほか、発熱等の体調不良時に備えて、ご家庭で新型コロナの抗原検査キットや市販の解熱鎮痛薬のご準備をお勧めいたします。

今後、寒さが増していき、窓を閉め切って暖房を使う機会も多くなります。特に、換気が不十分になりますと、エアロゾル感染のリスクが非常に高まりますので、30分から1時間ごとに1回程度、こまめに窓を開けるなど、これまで以上に意識して室内の換気の徹底をお願いいたします。

県民の皆様には、引き続き、換気の励行、場面や状況に応じた不織布マスクの正しい着用、ゼロ密、こまめな手洗いなど、基本的な感染防止対策の徹底をお願いいたします。

次に、児童虐待防止推進月間及び女性に対する暴力をなくす運動期間について申し上げます。

11月は「児童虐待防止推進月間」であります。本県でも、社会全体で児童虐待防止の気運を高めるため、「山形県オレンジリボンキャンペーン」として、モンテディオ山形と連携したPRを実施したほか、オリジナルCMの放映をテレビとYouTubeで行っています。

また、11月12日から25日までは「女性に対する暴力をなくす運動」期間であります。本県でも、文翔館のパープルライトアップや県庁、男女共同参画センター「チェリア」等でのパネル展示、パープルリボンの着用などにより、女性に対する暴力のない社会を目指す「パープルリボンキャンペーン」を実施いたします。

子どもと子育て家庭を見守っていただくとともに、虐待かもしれないと思ったら、ためらわずに児童相談所虐待対応ダイヤル「189」（いちはやく）に電話して下さるようお願いいたします。

さらに、DVに悩んでいる方は、一人で悩まず DV 相談ナビ「#8008」（はれれば）に電話してくださるようお願いいたします。また、性犯罪・性暴力に悩んでいる方は、性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター「#8891」（はやくワンストップ）に電話してくださるようお願いいたします。県民の皆様にも、暴力に悩む女性に声をかけたり、相談を促したりしてくださるようお願いいたします。

記者クラブの皆様にも、啓発にご協力くださいますようお願いいたします。

☆発表事項

知事

ここで私から発表が一つございます。「やまがたハッピーサポートセンター」における新マッチングシステムの導入について申し上げます。

県と市町村、経済団体で組織する「やまがたハッピーサポートセンター」では、結婚を希望する方の出会いの機会の拡充のため、新たなマッチングシステムを導入し、11月22日、いい夫婦の日と言っておりますけど、その日から、新システムによる新規会員の登録をスタートいたします。

新しいシステムの愛称は、「Ai（あい）ナビやまがた」であります。Ai と書いて「あい」と読みます。

これまで、センターに来所して利用する必要がありましたが、新システムでは自宅等からスマートフォンやパソコンを使って登録、お相手探し、お見合いなどができるようになりました。また、AI が性格診断の結果やシステム利用情報を分析・学習して、おすすめの相手を紹介する機能が加わるなど、より利用しやすく、より多くの出会いが期待できるものとなっております。なお、お相手探しなどのご利用は、1月10日からとなります。

また、新システムの導入を記念しまして、通常の登録料1万円。これ、有効期間2年間です。この1万円を半額の5千円にする登録料半額キャンペーンを11月22日から12月31日まで実施をいたします。

コロナ禍により、結婚を希望している男女が出会う機会が大変少なくなっております。この機会に、より多くの方から「やまがたハッピーサポートセンター」の新システムをご利用いただけるよう、報道機関の皆様には、周知・広報にご協力くださいますようお願いいたします。発表は以上です。よろしくをお願いいたします。

☆代表質問

記者

日本経済新聞の増渚です、よろしくをお願いいたします。

今日は、新型コロナについて改めてお伺いしたいと思います。先ほどのご発言にもありましたように感染状況は増加傾向にある中で、これは第8波の兆しと言えるのかどうか、県としてはどう捉えているのか、その辺をお聞かせください。

また、ワクチン接種に関して、BA.1（対応型）から BA.5（対応）型への切り替えとか、インフルエンザワクチンとの並行接種など含めて、今後どのように進めていくのか、その辺のお考えをお聞かせください。

知事

はい、ではお答えいたします。直近 1 週間、10 月 31 日から 11 月 6 日までの人口 10 万人あたりの新規感染者を年代別に見ますと、10 代及び 10 歳以下の年代での感染者数の伸びが非常に大きくなっております。

学校や保育所・幼稚園での感染拡大から、親世代・祖父母世代など家庭内感染に広がっている状況と捉えております。

本県は、全国で見ますと、人口 10 万人あたりの新規感染者数が引き続き高い水準にあります。

この要因としまして、第 7 波においては、本県は、都市部に比べて感染のピークアウトの時期が遅かったことや、累計感染者数が多く既に集団免疫を獲得している都市部よりも免疫を有する人が少ないこと、また、検査キットを活用して積極的に自己検査を行って陽性者登録をしているなど、複数の要因が影響しているのではないかと捉えております。

こうした現在の感染状況が、いわゆる「第 8 波」の兆しかどうかにつきましては、医療専門家のアドバイザーにお聞きをしましたところ、「第 8 波とは言い切れない。あと 2～3 週間の感染状況を見てからではないか。本県の場合、第 7 波が収束せず、高止まりが継続している状況」でありますとか、「感染者数が明確に増加した時点で第 8 波と捉えられるのではないか」といったご意見をいただいたところであります。

こうした状況も踏まえますと、県としましては、今後の感染状況の動きや病床のひっ迫状況を引き続き注視しながら、危機感を持って対応していく必要があると考えております。

とりわけ、重症化リスクの高い高齢者施設や障がい者施設におきましては、連日のようにクラスターが複数発生している状況にあります。

このため、県では 11 月中旬から、高齢者施設等を対象とした抗原検査キットによる週 2 回程度の検査を、集中的に実施するため、施設の従事者や新規入所者を対象として、政府から提供される約 113 万回分の検査キットを各施設に無償配布してまいります。

こうした早期発見の取組みを実施することにより、最大限の警戒をしながら、引き続き感染の防止と経済回復の両立にしっかりと取り組んでまいります。

次に、ワクチン接種につきましては、オミクロン株対応のいわゆる 2 価ワクチンのうち、BA.5 対応ワクチンは、10 月 17 日以降、各市町村で順次開始され、切替えが進んできているところであります。概ね 11 月下旬までにはほとんどの市町村で BA.5 対応に切り替わる見込みと聞いております。

加えまして、県で BA.5 対応ワクチンの接種を加速するため、既にメディア等に公表しておりますとおり、12 日の土曜日から、11 市町において、土日祝日の巡回接種事業を実施し

てまいります。

接種対象は、12歳以上で、3回目、4回目及び5回目の方となり、計11日間で6,500人の接種を予定しております。

会場地以外の住民の方も接種可能でありますので、接種を希望される方には、ぜひこの機会を活用していただきますようお願いいたします。

一方、インフルエンザワクチンにつきましては、新型コロナと同様に重症化予防としてワクチン接種が有効であり、同時接種も可能となっております。特に、重症化が懸念される高齢者の方のインフルエンザワクチンは、定期接種となっておりますので、県民の皆様には、できる限り早めのワクチン接種をご検討いただきますようお願いいたします。

記者

ありがとうございます。ウィズコロナ対策の象徴でもある水際対策の緩和から、もう1か月になります。首都圏などでは外国人観光客の爆買いも復活しているようですが、山形県への効果っていうのはどれくらいあるのでしょうか。さらに、ウィズコロナ時代に入って、こういった外国人観光客受け入れについて、課題など感じられることがあればお伺いします。

知事

はい、わかりました。ではお答えいたします。

10月11日に、政府が、個人旅行の解禁や短期観光ビザの免除などの水際緩和措置を実施したことにより、東京や京都などのいわゆるゴールデンルートでは外国人観光客や観光消費が増加しつつあるとの報道を目にしておりますし、私も東京出張の際などに実感をしているところであります。

本県におきましても、台湾や香港、タイなどのアジアを中心に、外国人観光客の宿泊予約や山寺、最上川舟下りなどの観光地において、徐々に増えているという観光関係者からの声をお聞きしております。

今後の外国人観光客受入れの課題でありますけども、観光消費額の大きいインバウンドは観光事業者からの期待も大きく、一刻も早い観光復活に向けて、外国人観光客を本県に誘客する必要があると考えております。そのため、まずは、国際線が運航している成田空港や羽田空港から入国し、本県を訪れる外国人観光客を増やすことが重要でありますので、旅行商品の造成支援やSNSを活用した個人向け情報発信に取り組んでおり、今後は、民間事業者と一体となった現地でのプロモーションなどを行ってまいります。

また、受入態勢の整備につきましては、外国語表示や音声翻訳機の活用など多言語対応を引き続き進める必要があると考えております。県内の宿泊施設や観光立寄施設を対象に、Wi-Fiの整備や音声翻訳機の購入など、インバウンド受入れに必要な設備投資への支援のほか、外国人観光客をおもてなしするため、語学研修の支援をしております。

なお、本県滞在中での新型コロナを含めた病気や怪我の対応につきましては、外国人向

けの総合相談窓口を設置して対応しておりますが、より多くの医療機関から外国語対応をしていただけるよう、医師会など関係機関と速やかに調整してまいりたいと考えております。

県としましては、引き続き本県への誘客促進を図るとともに、観光事業者が安心して、外国人観光客を受入れできるよう、関係機関と連携しながら対応してまいりたいと考えております。

記者

ありがとうございます。

☆フリー質問

記者

おはようございます。共同通信、阪口です。まず冒頭ご発言ありました、第8波と捉えているかどうかというところで、まだまだしばらく見ないと分からないということだったと思うのですが、今回年末にかけて来るのではないかというのが大方の予想であり、1,999人が、8月でしたかね、最多になったのが。昨日が、1,600人台とかなり近づいてきていて危機感が高まっているんじゃないかなと思うのですが、これまでの感染者の波と比べまして、経済との両立というのが意識としては高いのかなと思うのですが、例えば第7波を超えるような感染拡大であっても、例えば、お正月になればですけども、帰省とかそういったところに関わってくると思いますが、例えば、現時点で結構なんですけれども、行動制限をかける予定があるのかとかですね、例えば外での飲食を自粛してもらうように、忘年会を自粛してもらうようになどと要望するようなお考えがあるのかどうか、伺えますでしょうか。

知事

そうですね。これから例えば、どのような種類の変異株みたいなものがね、現れてくるかというようなことも考えなければいけないというふうに思っておりますけど、ただまだそういう時点ではございませんので、現時点で、今の状況が続いたというようなことであればですね、行動制限は現時点ではかけるような考えはありません。

やはり、感染対策をしっかり行いながら、経済もですね、回していくと。回復に向けていくというようなことで進めていければというふうに思っております。

記者

まさに11月に入って、本格的に忘年会なんていうところの予約のシーズンでもあると思うのですが、そういったところは別に今のところは予約はどんどんしてもらって構わないというような理解でよろしいでしょうか。

知事

そうですね。今はもう11月中旬に近いわけなんですけれども、やっぱり新しい変異株がどういものが来るのかという、そういう懸念があるわけなんですけれども、今のところまだ新しい変異株は来ておりませんので、忘年会をちょっと早めて開催していただくとか、そのようなことでやはり、忘年会といったことは開催していただければというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。話題変わりました、政府の経済対策についてなんですけれども、光熱費支援ということで、目に見えるように支援をとということで政府のほうから打ち出しがあったと思うんですけれども、プロパンガスが対象外という形になっているようで、電気代とか都市ガスと比較して値上げ幅が少ないというのが理由みたいなんですけれども、地方を中心にプロパンガスの利用者が非常に多いと思います。知事も先日の公明党の大会の時に、直接公明党の幹部の方にご要望されていたんじゃないかなというふうに記憶しておりますけれども、この点どのように評価されるかまず伺えますでしょうか。

知事

そうですね。やっぱり、地方の自治体としまして、人口の多い都市部ではやはり都市ガスかもしれませんが、(地方は)プロパンガスを利用している家庭は大変多いと思いますので、特に郡部のほうは、プロパンガスが多いと思いますので、プロパンガスもやっぱり対象に入れていただきたいなというふうに思っています。

今、記者さんおっしゃったように、ある党の大会にちょっと出席をいたしまして、そして国会議員の方がいらしていましたので、「プロパンガスも入っていますか？」とお聞きしたら、「入れるつもりです」というお答えがありましたので、入れてもらえるんだなというふうに思っていましたけど、また精査をしまして、入っていないのであればやはり、地方からしっかりと「プロパンガスも入れてください」ということを申し上げていきたいというふうに思います。

記者

ありがとうございます。その点、全世界的に光熱費が上がっている中で、光熱費に対する支援というのが世界中で打ち出されていると思うんですけれども、この脱炭素社会の実現においてですね、それに逆行するんじゃないかという指摘もあると思います。県としてはこのカーボン・ニュートラルというのを目指している中でですね、こういった施策、なかなかバランスをとるのが難しいんじゃないかなと思うんですけれども、知事どのようにお考えでしょうか。

知事

そうですね。やっぱり大変難しいところではあるんですけども、ただ雪国でありますので、とにかく寒さを我慢するというようなことは、もう本末転倒になりますので、やはり県民の皆さんには、とにかく健康が一番大事であります。暖かい生活ということでお願いしたいと思いますし、住宅という、その分野ですね、エコでありますとか、本当にゼロ・エミッションのような住宅もできているということで、そういった施策をしっかりとですね、私どもも進めていければというふうに思っています。

長い目で見ればそういった住宅施策というように、しっかりとやっていきたいと思っていますが、今年の、今のということでもあります、やはりちょっと厳しいものがあるのかなと思っています。中長期的に見れば、しっかりと総合的に見てですね、脱炭素にしっかり向けていくというのは、これはもう、私どもの社会的使命だと思っていますし、やっぱり人間生活それから地球のことを考えても、脱炭素ということに向けてできる限りの努力をしていかなければならないというふうに思っています。

ただやっぱり紆余曲折は少しはあるかと思うんですけども、しっかりと脱炭素社会を目指すという旗頭をしっかりと持ってですね、掲げて、できる限りの県民生活でありましたり、産業界でありましたり、取組みを強化していく必要はあるというふうに思います。

記者

ありがとうございます。また石油対策についてなんですけれども、財源のほとんどは国債だということもいろいろ指摘されています。県のほうもなかなか厳しい財政の中で様々施策を打つ、知事も打ちたいというところに財源の制約があって打てないというところがあると思うのですけれども、その中で国はどんどん国債を発行している状況については、知事はどのようにお考えですか。

知事

そうですね。はっきり申し上げれば、地方自治体は輪転機は持っていません。政府は輪転機を持っています、ということで割と自在にそういったことができるのかなとは思っておりますけど、ただ次世代にですね、やはりツケが回っていくというようなことは、できる限り避けるということも必要なのかなとも思っております。

そういうことをせめぎ合い、考えをせめぎ合いながらですね、上手にやりくりしていただければというふうに思っています。それくらいしかなか言えないところですね。

記者

最後に話題変わって、モンテディオ山形なんですけれども、J1惜しくも逃すような形になりました。県民、久し振りにワクワクしたような時間だったんじゃないかなと思います

けれども、来季に向けての期待なんかも含めて伺えますでしょうか。

知事

そうですね。まず入れ替え戦までちゃんと進めたということの評価したいと思いますし、県民も大変ワクワクして観ていたと思います。(入れ替え戦)1回戦がね、3-0だったかな、大変快進撃だったので、本当にみんな大きな期待を持っていたと思いますけど、残念ながら、2回戦は引き分けというようなことでJ1進出には至らなかったということであります。本当に惜しいなーという気がいたしましたけれども、ただ入れ替え戦までちゃんと進んだので、次回こそはぜひ、J1に上がっていただきたいなと思います。クラモフスキー監督、非常にどンドンと、何と言うんでしょうかね、監督を中心に盛り上がってくればというふうに思っています。

記者

山形新聞の鈴木です。よろしくお願ひします。今のモンテディオ山形に関連してお聞きします。県として来年以降ですね、チームのJ1に上がってほしいという願ひは今お聞きしましたが、どのように支援をされていく、新たな支援をされていく考えはありますでしょうか。

知事

「新たな」と言われるとちょっと、すぐに検討したわけではありませんので、即答はできませんけれども、今まで通りですね、つや姫や雪若丸というネーミングをですね、ユニホームに入れていただいたり、県職員なり、あと県と市町村がですね、応援デーを作ったりというようなことで、これまでも取組んできましたので、そういったことはやっぱりしっかりと、また引き続き応援をしていければというふうに思っています。

記者

もう1点だけ、モンテディオ山形について。知事は、最近現地NDソフトスタジアムで観戦はされていますか、というのと、今後來年以降ですね、21試合ホームゲームがあるわけですが、観戦される予定というのはありますでしょうか。

知事

そうですね、私、サッカーもバスケットボールもバレーボールもですね、ここ数年行っていないかなと思います。

本当に県政課題が多くてですね、ちょっと行っていなかったなということでもあります。状況を見ながらですね、行けるのであれば行ってみたいというふうに思います。

記者

山形放送、眞田と申します。先日県内に5年ぶりに発令されましたJアラートについてなんですけれども、いろいろ正確性などですね、議論なされていると思うのですが、知事の所感をいただけますでしょうか。

知事

Jアラートですね。3日にJアラートが発令されたわけなんですけれども、政府においてミサイル落下の危険性があると判断され、Jアラートを発令したということでもあります。今回の発令につきましては、第1報が日本列島上空の通過予想時刻の後になったことや、通過情報自体が後で訂正されたということがありました。これはですね、政府としても問題であると認識をされておまして、システムの改修を検討していると聞いております。

私としましては、国民・県民が早期に避難行動を取れるように、着実にシステムの改修等を進めていただければというふうに思っています。

記者

ということは、現在のシステムですね、運用方法については改善が必要だというお考えでしょうか。

知事

そうですね。やはり通過後ではどうにもならないかなと思いますので、改修をして進めていただければと思います。

記者

承知いたしました。ありがとうございます。

記者

河北新報の原口と申します。

Jアラートについてまたお伺いしたかったのですが、当日にも知事コメントが出ましたけれども、実際山形の上空をそういうものが飛んでくるという可能性があるというふうになったということについての所感をお願いしたいのですけど。

知事

そうですね、日本の上空を通過するということですので、本県は日本の中の一つの県でありますので、その可能性は十分にあるということは想定はしていたものの、やはりいざですね、新潟、山形、宮城、この3県でJアラートが鳴ったわけでありまして、実際にそういうことが起こりうるんだという実感を持ちましたね。県民の皆さんもそうだと思います。

実際には通過しなかったということが後でわかったわけなのですから、本当に通過するんだという実感を持って受け止める事態であったというふうに思います。

だから県民の皆さんも大変驚かれたというか、非常に不安に思われたと思います。そういった県民の皆さん、地域社会の安全・安心を脅かすそういう事態であったと思います。

記者

それを受けて、政府のほうの、システム改修の要望というのも当然そうだと思うのですが、県としてその不安を解消するために、どういった対策をしていきたいかというのを改めてお願いしたかったのですが。

知事

そうですね、県としてはね、どういうことができるかということなんですけれども、緊急一時避難施設というのがあるんですけども、その拡充に取り組みますとともに、11月29日に寒河江市で実施予定の住民避難訓練を通して、緊急時取るべき行動について、県民の皆様幅広く周知をしてきたいというふうに思っています。

あとは、あわせて政府に対してですけれども、国際的な連携をさらに強め、断固とした対応を取るよう求めるとともに、引続き関係情報の収集や市町村や関係機関との連携に努め、県民の皆様の安全確保に万全を期していきたいというふうに思っています。

やはり、県内の「緊急一時避難施設」というのが563か所あるということでもあります。それで、11月1日付で新たに197か所追加したということでもあります。今月中にさらに88か所追加すると聞いておりますので、そういった避難施設を拡充することと、あとはですね、やはり小さい頃からの防災訓練といいますか、そういうことが大事だと思いますので、やはり学校というようなところで避難訓練みたいなものを少し考えていかなければならないのではないかとというようなことを内部で話しております。

記者

読売新聞の吉田です。今の質問に関連するのですが、「緊急一時避難施設」に関しては、そもそもその存在であるとか、あるいは万が一の時にですね、どのように利用するかということを県民があまり知らないという実態があると思います。

この周知に関しては国の責任というのは大きいと思うのですが、県とですね、市町村の方で、最後、子どもたちへの訓練ですか、そういったこととあると思うのですが、知事としてこれを県民に広く周知していくために必要だと考えていることはありますか。

知事

はい。この「緊急一時避難施設」でありますけれども、コンクリート造りなどの堅牢な建

築物や地下施設、そういうものと国では位置付けておりますね。ですからそれにあたるものは、本県の場合、市町村庁舎ですとか、学校校舎ですとか、公民館とか、そういったものがあるというふうに考えられます。あと、地下道などのね、あまり多くはないですけど、でも地下道というようなところも避難施設になりうると思います。数は多くないと思いますが、これはやっぱりもっともっと県としても周知していかなければいけないと思いますので、今後ですね、担当と話して、どういうふうに県民の皆様にしかりとこれを知っていたできるようにしていくかということについて、取り組んでいきたいというふうに思います。

記者

わかりました。すいません、あと話題は変わります。本日午後に山形県さくらんぼ&フルーツPR協議会(仮称)の設立総会があると思うのですが、この協議会の設立の狙いとして、今年度の当初予算から一時計上して、(その後)撤回したフルーツ情報館の施設整備というのがあったと思うのですが、それを踏まえて情報発信のあり方というものをこの協議会において検討していくのか、この協議会に対する期待といつくらいまでにそれを、結論めいたものを打ち出していくのかというのをお聞かせください。

知事

失礼しました。今日の午後にそのさくらんぼなんとかという協議会が開かれるというのは、ちょっと私存じ上げていないので、そこでどういうことを検討するのかちょっとわかりません。

記者

すると、これは情報発信のあり方がどうかという、先の定例会でも予算特別委員会とかで質問があって直接説明もされていたかと思うんですけども、この協議会というものはそれに関連するものではないというふうな理解でよろしいですか。

知事

ちょっとお待ちくださいね。農林部ですよ。違いますか。みらい部ですか。農林部、いますか。所管は農林部なものですから、答えてもらいたいと思いますので。後ほど答えさせていただきます。

記者

すいません、先月末に文翔館で始まった「YAMAGATA Youth Summit」について1点伺いたと思います。

知事も英語でオープニングスピーチをなさっていましたが、「山形県から世界に新たな価値を発信する」ということの意義を知事としてはどう捉えているか、また、サミットは

12日まで続きますけれども、現時点で英語ですべて開催した初回でなんらかの効果を感じられたか、あと、どんな効果を期待されているかみたいなことも教えていただければと思います。

知事

はい。正直申し上げまして、一所懸命あいさつを私練習しました。全編英語でやるということでありましたので、本県にとって画期的なイベントだなというふうに思ったところがあります。

10月30日、文翔館議場ホールで開催した「YAMAGATA Youth Summit」のオープニングイベントでは、私のウェルカムスピーチのほか、県内の高校生や大学生によるスピーチ、パネルディスカッションまで、全編英語で行ったところです。このようなイベントは全国的にも例がないのではないかと思います。

私はあいさつの中で、ニューヨークでもパリでも、東京でも大阪でもなく、ここ山形から日本の価値を世界に発信したいと申し上げました。大事なのは、「YAMAGATA」というワードが世界に発信される、そのことだというふうに思います。

この「YAMAGATA Youth Summit」を通して、国内外の第一線で活躍される実業家や芸術家など、様々な方々が山形に集って、県内の若者たちと議論を交わすことで、外国人をはじめとする新たな関係人口をつくりながら、世界に山形の存在感を高め、本県のグローバル化を進めていきたいと考えております。

ヤマガタユースサミットは第一歩を踏み出しました。

私としましては、継続したユースサミットの開催を通して、地域の魅力や価値を高め、国内外に発信することで、県内の若者が山形及び日本を誇りに思っただけことを願っております。そして世界に認知される山形県を創ってまいりたいというふうに考えております。

いろいろな関係機関、関係者の方々から大変なご協力、ご尽力も賜りました。本当にこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

県内の5か所で確か行われるということでありましたので、尾花沢でありましたり、米沢、鮭川村、酒田というようなところで、山形市は皮切りでしたけれども、県内のいろいろな箇所その土地の文化や歴史などについてですね、SDGsといった大きな視点も盛り込みながら、世界的な課題について、国際的な課題について議論するというようなことは非常に私は有意義なことだと思っています。それが山形で行われる、山形の若い人たちの刺激になると思いますし、国際交流関係人口の拡大にも資すると思いますので、しっかりとこれは続けていければというふうに思っています。